

研究調査報告

戦時下日本の大衆メディア研究班 みなかみ町猿ヶ京「民話と紙芝居の家」調査報告

原田 広

(非文字資料研究センター 研究協力者)

みなかみ町猿ヶ京「民話と紙芝居の家」

戦時下日本の大衆メディア研究班は、2月姫路・高松・徳島「兵庫県立歴史博物館等」、5月大津「人形劇の図書館等」、8月函館・札幌「遺愛幼稚園等」に続き、群馬県みなかみ町猿ヶ京「民話と紙芝居の家」において2019年4回目の紙芝居調査を実施した。調査日程は9月21日(土)～22日(日)、今回調査に参加した研究員4名(安田常雄、大串潤児、新垣夢乃、原田広)は、初日正午前に上越新幹線・上毛高原駅で合流し、みなかみ町の山道をレンタカーで走ること一時間弱、猿ヶ京温泉地「まんてん屋の湯下」にある「民話と紙芝居の家」(以下「紙芝居の家」)に到着した。

迎えていただいた同施設理事・宮崎りえ子氏のご説明によると、「紙芝居の家」は、2002年5月設立「NPOにはるこども文化塾」の社会教育事業を担う「猿ヶ京紙芝居館(仮称)」として(当初は「村」からの業務委託により)設置された。その後、同法人・持谷靖子理事長のもとで、紙芝居のルーツとされるのぞきからくり・影絵・絵巻物、戦前・戦後にわたる紙芝居の収蔵・展示・実演施設、猿ヶ京に伝わる民話を明治大正生まれの語り部の映像記録で鑑賞できる「民話の囲炉裏」などが整備された。数多くの紙芝居資料は、後述する「三国路 与謝野晶子紀行文学館」館長でもある持谷靖子氏が収集・制作・所蔵されていたもののほか、この地域に残されていた関連資料を「紙芝居の家」に集中管理することによって整備されてきたものである。紙芝居関連の施設・設備には最も多くのスペースが配置されており、特に、一般にはよく知られていない紙芝居の歴史を分かり易く説明するために、スライド式壁面に解説と作品をセットで埋め込んだ展示スタイルはユニークな方式と拝察した。我々が訪問した両日ともに、秋の連休ということもあり、数組の親子づれが、宮崎氏によるのぞきからくりの実演や民話のDVDを鑑賞する姿がみられた。

紙芝居の調査

この間各所で言表してきたように、戦時下日本の大衆メディア研究班の調査目的は、研究成果報告書『国策紙芝居からみる日本の戦争』(勉誠出版、2018年2月28日)の編集・出版と並行して実施してきた全国各地に残る戦時下紙芝居を発掘し、同書の〈データ篇:戦時下紙芝居全国調査【暫定版】〉を補訂することにある。我々の調査研究においては、戦時下紙芝居を“日中戦争の勃発から太平洋戦争の終結にいたる1937年(1月)～1945年(9月)に刊行された印刷紙芝居”と自己定義しているところである(その目的・理由については



写真1 「民話と紙芝居の家」 エントランス



写真2 スライド式壁面解説



写真3 紙芝居「心構への新体制」

同書〈データ篇〉解題に記述した)。2018年12月末現在で我々が集約・把握している戦時下紙芝居の数量は、上記〈データ篇〉に掲載した戦時下紙芝居全国調査【暫定版】データ626点、復刻雑誌『教育紙芝居』『紙芝居』広告等データ380点、並行実施してきた各地調査による新規発掘・所蔵判明85点、非文字資料研究センターの新収資料37点の合計1128点である。この他に2019年1月以降の継続調査データ、同じくセンターの新収データが付加される予定である。その一方で「紙芝居の家」には、戦前の紙芝居を含む約2000点が所蔵されていることが訪問調査の事前情報として得られていた（一事実、エントランス脇の閲覧室には、戦前・戦後の街頭紙芝居を含む紙芝居資料が壁面書架いっぱい配架されている）。そこで、我々の調査目的に沿った照合作業を効率的に行うために、宮崎氏に事前をお願いして「戦前・戦中の紙芝居リスト」一街頭紙芝居を除く34点一を作成していただき、我々が把握しているデータと照合するという恒例の第一次作業を行うこととした。

この照合作業の結果、「新規発掘」（全国書誌暫定版、各地調査、非文字所蔵データになかったもの）3点、「所蔵判明」（復刻雑誌『教育紙芝居』『紙芝居』広告等で書誌データは把握されているが所蔵館が分からなかったもの）2点があることが分かり、あらためて我々の調査目的を宮崎氏に説明し、資料の撮影許諾をいただいた。これらの照合・撮影作業には、日常的に団体来客向け説明会などに使われている「紙芝居の部屋」を、両日にわ

たって使用させていただいた。

新たに発掘／所蔵が判明した作品等の紹介

今回の調査・撮影対象資料のうち、「新規発掘」と「所蔵判明」一すなわちこれまでの調査の限りにおいて「紙芝居の家」が単独に所蔵する紙芝居作品一は、下記の通りである（出版年月日の古い順に掲載する）。

◎新規発掘（全国書誌暫定版、各地調査、非文字所蔵データになかったもの）

- ・もう一人の博士／今井よね編。一紙芝居刊行会、1940.10.20.—20枚
- ・心構への新体制／大阪市原作；藤井正美脚色；池田北鳥絵画；厚生文化研究所構成一大阪市総動員局、1941.07.25.—20枚
- ・ナアマン將軍／今井よね編。一紙芝居刊行会、1941.10.05.—20枚

大阪市総動員局から発行された「心構への新体制」の奥付には、後に田辺製菓となる「ノバボン舗本舗株式会社田辺五郎兵衛商店献納」の記載があり、民間会社をも巻き込んだ大政翼賛運動を如実に反映した作品である。登場人物（絵画面）には当時の諸メディアで流行していた「翼賛一家」のキャラクターが使用されている。また、三国同盟を締結した日独伊の指導者がそろって登場することも異色である。今井よね（紙芝居刊行会）による宗教紙芝居2作品は、戦前のキリスト教関係としては比較的“後期”に属するものと考えられる。

◎所蔵判明（復刻雑誌『教育紙芝居』『紙芝居』広告等で書誌データは把握されているが所蔵館が分からなかったもの）

- ・弘法大師。一日本教育紙芝居協会、1940.11.25.—21枚（作品番号105）
 - ・花は揺るがず：軍人援護画劇／武田垂公作；辰巳まさ江画。一大日本画劇、1944.10.01.—20枚—軍事保護院、恩賜財団軍事援護会後援決戦紙芝居入選作品
- 「弘法大師」には、日本教育紙芝居協会の活動に深く関与していた鈴木景山によって、創作意図や弘法大師の事跡が7枚にわたって詳細に記載されている。「花は揺るがず：軍人援護画劇」は、軍事保護院や軍事援護会と密接な関係にあった大日本画劇からの刊行である。

◎その他

以上が「紙芝居の家」が単独に所蔵する作品となるが、下記のように、この間の各地調査で発掘されてきた作品と“重複”するものもあった。「戦時下紙芝居全国調査【暫定版】」を補訂する際には〈調査時点の時間的前後関係〉は同一視されるべきものであることから、これら“重複”も上記の「新規発掘」「所蔵判明」作品と同等に扱うことになる。しかし、本センター『ニューズレター』等で既に報告済みの記述やデータもあるため、敢えて本稿では、「紙芝居の家」単独所蔵作品と区別して紹介することにした。

- ・オムスピコロリン（幼稚園紙芝居第20輯）／高橋五山（画）—全甲社紙芝居刊行会，1938.05.28.—16枚：2018年6月愛荘町信光寺調査で「新規発掘」したものと同一。
- ・桑と子供と兵隊：戦意高揚画劇／渡邊三郎作；伊勢田邦男画—大日本画劇，1944.10.20.—20枚：2018年11月信州戦争資料センター調査で「新規発掘」としてきたが、雑誌『紙芝居』7巻10号の予告記事にある「桑と少年と兵隊」と同一と見做されるので「所蔵判明」として扱うべきものとする。また今回発見された現物は全20枚中5枚が欠落している。
- ・コネコチヤンノオヒガサ／川崎大治作；羽室邦彦画。—日本教育紙芝居協会，1941.05.15：2018年6月大津人形劇の図書館調査で「所蔵判明」したものと同一。
- ・花まつり／高橋五山作；丘みどり画—全甲社紙芝居刊行会，—1940.05.05：2016年6月愛荘町信光寺調査で「所蔵判明」したものと同一。

その他「紙芝居の家」には、我々が把握している作品データと出版年月日が異なるものとして次の5点が所蔵されている。—「江戸っ子寅さん」「空白の遺書」「成道のお話（仏教紙芝居第3輯）」「大政翼賛」「泣いた赤鬼」。詳細は紙幅の関係で省略させていただく。

なお「紙芝居の家」から提供されたリストにあった作品「母こそ我が力」は、非文字資料研究センターほかが所蔵する「戦士の母」1941.06.18の25枚目（最終）を表紙にしたものであり、新規発掘の対象からは除いた。

まとめとして

わたしたちは、調査二日目の午後、「紙芝居の家」のぞきからくり「さるじぞう」の実演を拝見させていただいた後、同じく猿ヶ京温泉にある「三国路 与謝野晶

子紀行文学館」を見学した。館長の持谷靖子氏は、1940年群馬県前橋市生れ、慶應義塾大学文学部卒業。民間企業勤務後、新治村（現みなかみ町）の地元大手ホテルに嫁ぎ、家業のかたわら土地の民話採集を始め、30年間にわたり民話の語り部を続ける。「紙芝居の家」理事長のほか、「語り座てまり」代表を務め、「語りの達人」の称号を群馬県より受ける。群馬県文学賞を受けた『絵画と色彩と晶子の歌』や『上州、新治村の民話』など多数の著書がある（悠書館HPより）。白壁2階建ての同館は、持谷氏の与謝野晶子関連収蔵品を公開展示するために建てられたものであり、1階に視聴覚室・カフェ・書庫・資料室、2階にギャラリー・展示室を有する。1階に配された大正ロマン風の調度・装飾品は建物と見事に調和し、カフェでは裏庭の緑を眺めながら珈琲を味わうこともできる。2階の展示スペースで公開されている与謝野晶子資料は、同地で晶子が詠んだ歌碑レリーフ、現代語訳源氏物語関係資料など他を凌ぐ資料群である。

今回の紙芝居調査において、「紙芝居の家」からリスト化いただいた34点中5点が同施設の完全なユニーク所蔵であったことは、各地調査の経験上からも大きい成果であったということが出来る。このことは、2000年代前半に法人化された施設による組織的保存の効果であろうと考えられる。調査にご協力いただいた宮崎りえ子氏をはじめ「民話と紙芝居の家」関係者に深いお礼を申し上げるとともに、ますますのご活躍・ご健闘を祈念いたします。また予約なしに訪問したにもかかわらず、「三国路 与謝野晶子紀行文学館」の受付担当者には丁寧なご案内をいただき、併せて感謝申し上げます。

以上



写真4 三国路 与謝野晶子紀行文学館